

# 35歳からの U・Iターン 転職術

仕事はあるか?

給料は増えるか?

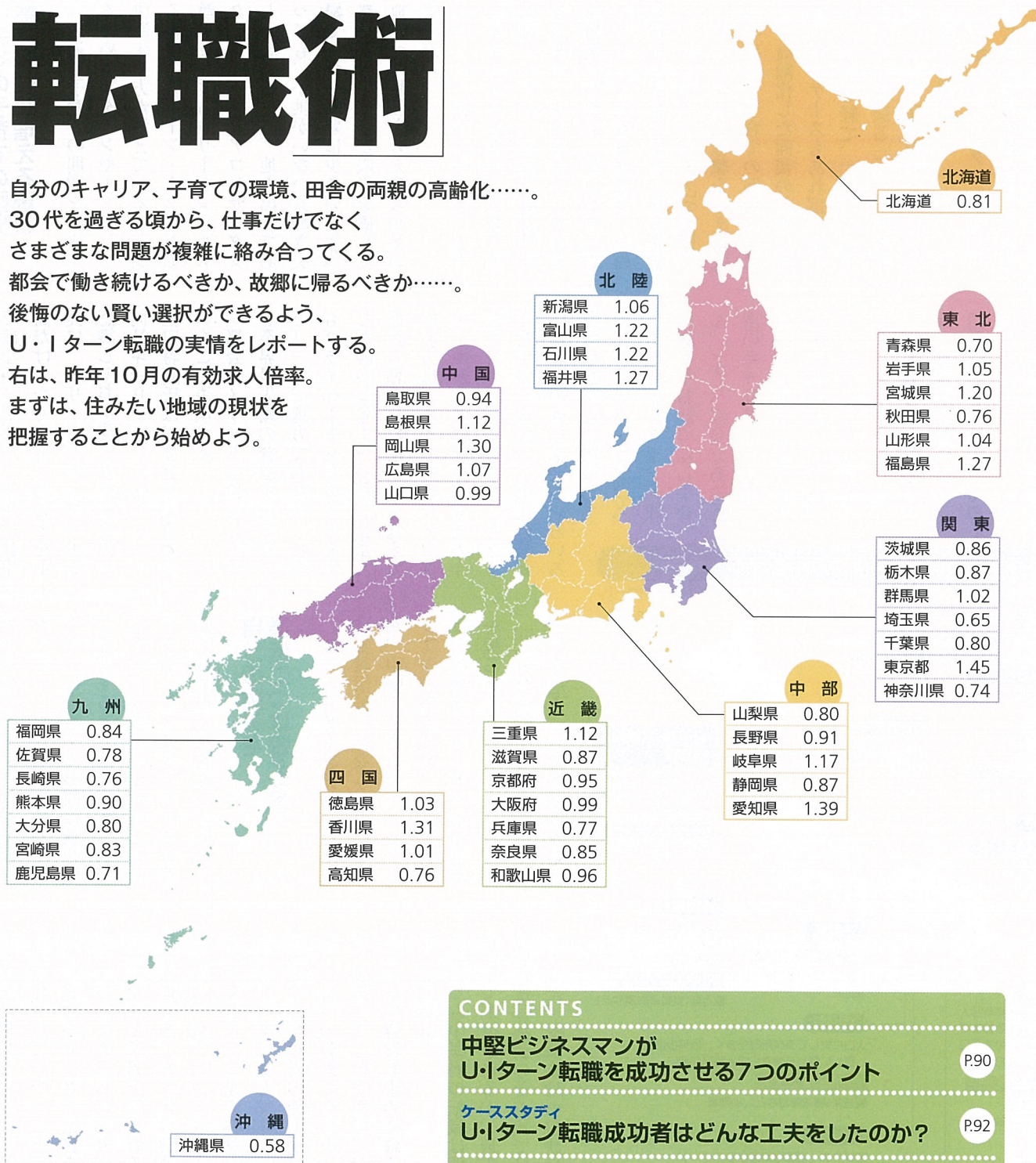
特別企画

都道府県別有効求人倍率

全国計 ..... 0.98

資料: 2013年10月  
厚生労働省一般職業紹介状況  
(職業安定業務統計)

自分のキャリア、子育ての環境、田舎の両親の高齢化……。30代を過ぎる頃から、仕事だけでなくさまざまな問題が複雑に絡み合ってくる。都会で働き続けるべきか、故郷に帰るべきか……。後悔のない賢い選択ができるよう、U・Iターン転職の実情をレポートする。右は、昨年10月の有効求人倍率。まずは、住みたい地域の現状を把握することから始めよう。



## CONTENTS

中堅ビジネスマンが  
U・Iターン転職を成功させる7つのポイント P.90

ケーススタディ  
U・Iターン転職成功者はどんな工夫をしたのか? P.92



# 中堅ビジネスマンがU・Iターン転職を成功させる7つのポイント

中堅ビジネスマンの転職は、ライフスタイルの変化を伴うケースが増えてくる。だからこそ慎重になってしまうもの。そこで、数々の転職をサポートしてきたコンサルタントに、U・Iターン転職の成功のポイントをうかがった。

## 都会での子育ての限界と地方移住が増える現状

「最近では子育ての問題を解決するためにUターンやIターンを決断する方が増えている」と語るのは、Uターン・Iターン転職を支援する㈱リージョナルスタイルのキャリアコンサルタント・高岡幸生氏。地方出身であっても、子供がいない共働き夫婦であれば問題は少ない。だが、都会での子育てに限界を感じて地元への移住を考える人が多いようだ。

「Uターン転職に限りませんが、転職希望者の動機は、①給料、②会社そのもの、③業界の特性、④人間関係、⑤地域性のいずれかを解消するためです。UターンやIターン転職希望者は、⑤の地域性を変えることに重きを置いている層となります」(高岡氏)

U・Iターン転職を考える人の中には、子育ての問題以外にも、高齢化した両親のために故郷へ戻るケースもあれば、東日本大震災を経て、「いつかは戻る」を「いま戻る」に、時期を先送りしなくなったなど、事情はさまざま。

しかし、U・Iターン転職は、同じ都市での転職と異なり移住を伴うので、家族がいる年代に

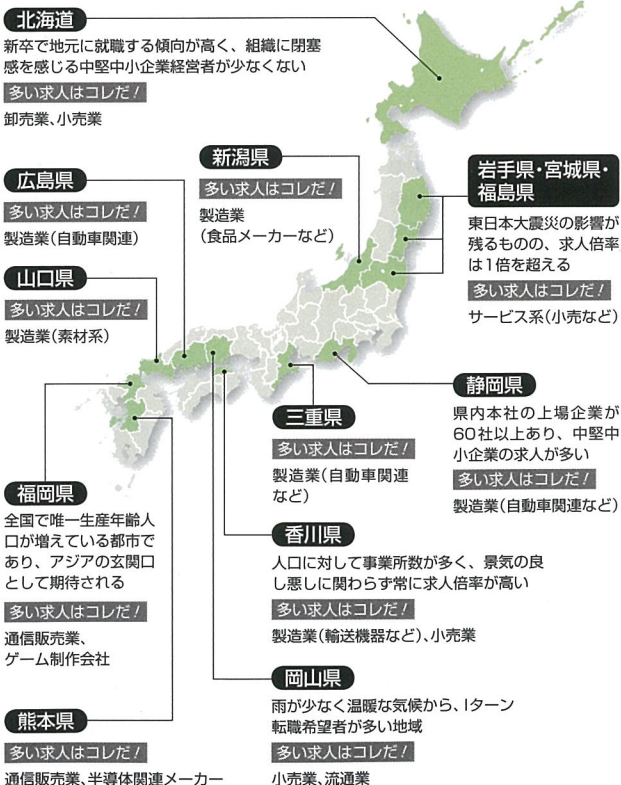
とっては気軽に決断できるものではない。そこで、まずは仕事面だけでなく生活することを前提に、メリットとデメリットを認識しておかなければならない。同社キャリアコンサルタント・植田将嗣氏は、都会と地方の違いをこう説明する。

「都会のメリットは何と言っても業界最先端の経験を積めること。一方、地方であれば、仕事もプライベートも全方位に充実した暮らしを手に入れます。都会の暮らしに違和感を覚えている方は、キャリアかライフスタイルか、ご自身やご家族の今後のライフプランを良く考えてください。私は、二十代の若者には刺激の強い都会でいろいろなものを学んで吸収して欲しいと思っていますので、二十代でのUターン転職はあまりお勧めはしません。しかし、都会である程度のキャリアを積んだ、三十五〜四十五歳くらいの方であれば、ライフプランをじっくりと検討してみたいかと思えます」

物理的なことで考えれば、家賃が安価で済み、通勤時間を短縮できるのは地方のメリット。また地方、とくに地元

## U・Iターン転職 地方トピック

資料:リージョナルスタイルの各地方拠点からのアンケート



## 自分の強みを最低二つは備える

これらの基本を押さえたうえで転職活動を行なうことになるが、中堅ビジネスマンがU・Iターン転職を成功させるためには、転職前のキャリア構築が鍵を握ると言う。

「転職を決断する前までにキャリアを磨き、自分の強みを最低二つは備えておきましょう。地方の企業は都会と異なり、業務が細分化されていないことが大半。総務部が人事部の業務を兼ねていることもざらにあり、多岐にわたった業務を任されることが前提です。たとえば営業職であれば、数字のシミュレーションができる、事業を構築できるなど、営業部長やマネージャー職をこなす以外の能力が必須です。一つの分野でスペシャリストであることは当然で、ゼネラリストの資質も求められるのです」(高岡氏)

二つは備えておきましょう。地方の企業は都会と異なり、業務が細分化されていないことが大半。総務部が人事部の業務を兼ねていることもざらにあり、多岐にわたった業務を任されることが前提です。たとえば営業職であれば、数字のシミュレーションができる、事業を構築できるなど、営業部長やマネージャー職をこなす以外の能力が必須です。一つの分野でスペシャリストであることは当然で、ゼネラリストの資質も求められるのです」(高岡氏)

都会でも中堅層の転職は即戦力として期待されるが、地方での期待度は都会のその比ではない。また、転職成功の秘訣はキ



## U・Iターン転職成功の7つのポイント

- 1 地方と都会の違いをきちんと認識する
- 2 最低でも2つは強みを持っておく
- 3 何のための転職か動機をしっかりと持つ
- 4 転職における優先順位をつける
- 5 転職エージェントに頼る
- 6 35~45歳がベストタイミング
- 7 転職時の給料にこだわらない

資料：高岡氏、植田氏への取材をもとに、編集部が作成

「何のために転職するのか」といふ動機と、ほんとうに転職する必要があるのか否かを明確にしておく必要があります。転職によって適えたい項目の優先順位を決定しておくのです。そうすれば、優先順位が低い項目で「違う」と思うことがあっても目を瞑れる。

とくに、縁のない場所に転職するIターンの場合、雇用する企業側も転職者側が強い志望動機を持っていないと慎重になります。実際に暮らしてみても、思っていた生活と違う、と仕事以前の問題が発生するケースがあるからです（植田氏）

## それまでのキャリアを活かして転職活動を

では、実際に転職活動はどのように始めたらいいのだろうか。「転職サイトに登録したり、ご自身で求人企業を探するなど方法はいろいろあります。しかし、三十代以上のビジネスマンは、転職エージェントを介したほうがスムーズに決まる人が多いです。三十代後半以降はキャリアがほぼ固まっているため、そのキャリアを活かせる職場を志望されることがほとんどです。転職エージェントですと、それぞれのキャリアに見合った職種や条件で企業を探し、マッチングさせられるので、雇用する側とされる側の条件が一致しやすい。公開されていない求人もあるので、一般的なもののより幅も広がります。また、転職希望者の大きなメリットとして、時間やお金を節約できることもあります。人事担当を経て、役員、社長と面接をするのではなく、決定権を持つ幹部

クラスとすぐに会え、すぐに結論が出ることも多いので、面接のために何度も地方に足を運ぶ必要がありません（植田氏）

年代的には、キャリアを備えた三十五歳過ぎにニーズがあると言う。ただし、四十五歳を超えると難易度が高くなる。「四十五歳を超えると、転職ではなくヘッドハンティングの領域になり、求人数自体が激減します。また、三十代であっても、転職でキャリアチェンジをしようとするのが難しい。U・Iターン転職に限ったことではないですが、キャリアチェンジが許されるのは二十代まで。繰り返しながらのスペシャリストでないと転職は難しくなります」（植田氏）

また、現在、地方では経営者の世代交代が進み、次世代の社長は右腕となる人材が不足していると言う。前代の社長の右腕は六十代や七十代と高齢化しているため、次世代社長の年齢と見合った中堅の世代が求められている、ということも知っておきたい。

## 年収アップの転職は危険 実力で認められるように

それでは、気になる給与面はどうだろう。

「U・Iターン転職は、九割がた年収がダウンすると事前に心づもりしておいてください。良くてスライドです。地方のほうが都会より平均年収が低いことが多いですし、本来転職は、その会社でのキャリアがゼロベースでのスタートとなるわけですから、下がるのは当然なのです」（植田氏）

だからこそ「年収がアップするU・Iターン転職は危険」と高岡氏は警鐘を鳴らす。

「プロパターの従業員との給料にあまりにも差がある転職はお勧めできません。給与額などは、なんとなく漏れ伝わるものです。それが広まったことにより居心地が悪くなり、実力を発揮する前に退職した、という例もあります。」

会社内での人間関係を円滑にするためにも、転職時の給与に固執しすぎるのは避けたほうが無難です。もしスタート時の年収が前職と比べて低かったとしても、仕事の中で評価を得て実力で年収をアップさせる。これが結果的に一番幸せな転職と言えます」

先に述べた世代交

取材協力

### (株)リージョナルスタイル

「暮らしたいところで思い切り働く」をテーマに大都市圏から地方へのUターン・Iターンを支援する転職エージェント。全国16カ所に拠点を構え、各地域に密着した転職サポートを行なう。  
http://www.regional.co.jp



高岡幸生

Yukio Takaoka  
株式会社リージョナルスタイル  
代表取締役



植田将嗣

Masatsugu Ueda  
株式会社リージョナルスタイル  
取締役

代という事情以外でも、人口流出による慢性的な人材不足に悩まされている地方の企業は多いという。この人材不足という現実が、U・Iターン転職成功の一因になり得ると高岡氏は語る。「転居した場所で生きていくという決意と、その地方で自分のキャリアを活かして新しいことを発信していく意気込みを持つ人材を、地方の企業は期待を込めて待ち望んでいます。都会で働いていた頃と同じ実力を周知させることができれば、その頃よりも短期間で評価されることも珍しくありません。」

地方は慢性的な人材不足であることが多いため、思い立ったときに転職に最も適した時期であると云えます。もし、都会の暮らしに疑問を持っている方がいるとしたら、ご自身のタイミングで挑戦してみたいかがでしょう」



ケーススタディ

# U・Iターン転職成功者は どんな工夫をしたのか？

35歳を過ぎてから都会を離れる選択をした4人の方々に、  
U・Iターン転職のきっかけと、成功の秘訣をうかがった。  
都会でのキャリアを最大限に活かしながら、ゆとりある暮らしを手に入れるためにやったことは。

CASE 1



新村亮太さん(仮名) 37歳

東京 ↓ 北海道へIターン

札幌にIターン転職し、結婚式場を運営するグロウヴエンターテイメント(株)で経営戦略室長を務める新村亮太さん(仮名)。

前職は東京勤務だが、転職活動はスムーズに進んだと語る。

「転職活動は、とくに勤務地にこだわらずしていました。ただ、大学が札幌だったことと、当時遠距離恋愛中で札幌に住んでいた妻の故郷ということもあり、札幌には馴染みがありました。しかも、前職で札幌出張が多かったことや彼女の存在もあり、ふたを開けてみると面接したのはすべて札幌の会社。二年間で四社の社長とお会いして、いまの会社に決めたんです。私の決め手は社長の人柄でしたが、社長も私に対してそう思ってくれたようでした」

地元・大阪とは遠く離れているが、札幌で良かったと言う。「妻の実家が近いので、出張中も安心して仕事に集中できるんです。出産後、妻が体調を崩

したのですが、あの時期、お互いの両親がそばにいない東京だったらと、想像するだけで恐ろしい。妻も自分の両親が近くにいるので、精神的に楽みたいですよ」

年収は百万円ほどダウンしたが、「まったく気にしていません」と笑い飛ばす。

「私の中でその差額は、いつか取り戻せるお金だと考えているんです。入社前にこちらから条件を提示して、クリアしたら評価してほしいと交渉しました。」

東京と比較すると情報量は少ないですが、仕事には支障ありません。富山にUターン転職した昔の同期が似たような業界にいて、お互いのビジネスを結び付けて、全国に広めていけたら、なんていうことも話しています。前職よりもやりがいを感じていると語る新村さん。札幌から新しいブランドビジネスが発信される日も近いかもしれない。

U・Iターン転職成功の秘訣

馴染みのある土地に住むことと、社長の人柄で会社を選ぶこと

プロフィール

1976年、大阪府生まれ。北海道大学、同大学院を修了後、(株)USENに入社。不動産会社2社を経て、2010年、転職。

CASE 2



中村 誠さん(仮名) 42歳

東京 ↓ 広島へIターン

子供の誕生をきっかけに自分か妻の地元で子育てをしたいと考え、妻の出身地・広島へIターン。代表取締役からマネージャー職に転身した中村誠さん(仮名)。

一見ポストダウンとも見えるが、中村さんは「転職のデメリットはゼロ」と言う。「年収ダウンは最初から覚悟していました。ただ、仕事内容に関しては一切妥協せず、自分がやりたいことをする、ということを貫きました。転職した(株)アスカネットは、デジタル写真の印刷・加工を手がける会社ですが、入社以来、新規事業の立ち上げでできた社長直轄のセクションでマネジメント全般を任されています。前職で、数十件の新規事業立ち上げに携わってきたことが評価されたようです。」

実は前は「雇われ社長」で、年収は個人事業主の売上げとしての金額だったので、実質的にはいまと大差ありません。前職のような不安定な収入ではなくな

ったことで精神的な安定も得られましたし、何より家族と過ごす時間が格段に増え、妻も喜んでくれています」

前職での取引先のネットワークから、自分の経験を活かせる仕事を探していた中村さん。並行して登録した転職エージェントの紹介で現在の会社の社長と面接。結果、転職活動一社目での転職先決定となった。

「会社の紹介をいただいたあと、コンサルタントという特質を活かして、会社の財務内容や業績をリサーチして、確実に事業を伸ばしている企業だと把握していました。広島に住む義姉から、『いい会社だよ』という情報も得ていたもので、目移りすることなく、安心して決断できました」

同社の社長と初めて会った十五分後には、「いつから来られるの?」と聞かれたという中村さん。本人も会社も納得の転職だったようだ。

U・Iターン転職成功の秘訣

仕事内容は一切妥協せずほんとうにやりたい仕事を選ぶ

プロフィール

1971年、福岡県生まれ。西南学院大学卒業後、エネルギー商社へ入社。金融系ネットサービス会社などを経て、2012年、転職。



埼玉→島根へUターン

CASE 3



津田 健さん 41歳

島根県雲南市で、パソコンやデジタル家電などのサポートをするコールセンターを運営する(株)CSRで営業部長としてまゝめる津田健さん。一昨年、埼玉県からUターン転職をした。

「同郷の妻と、定年したら島根に戻ろうと前から話していて、東京で開催される、ふるさと島根定住財団のU・イターンイベントに数年前から参加してました。すぐの転職を考えていたわけではないのですが、たまたま一昨年、それまでの仕事の経験を活かせる仕事を紹介いただいた、このタイミングでの移住もありかも、と本気で転職を考えはじめました」

八月にイベントで話を聞いて、自ら会社に連絡。人事担当者とは何回か電話で話をしたあと、翌月の帰省時に合わせて面接をし、すぐに内定。前職の引継ぎなどを済ませ、翌年の四月に入社をした。

「やはり東京と比べて会社の規

模が小さいので最初は少し不安でした。しかし、話を聞いてみると、全国を相手に業務を実施しており、これなら大丈夫かな、と。転職前と仕事内容は大きく変わっていませんが、以前より小さな会社だけに個人に任せられることも多く、仕事の範囲や責任が増えたことで、やりがいも大きくなりました。

給与面では少し下がりましたが、住居に関わる費用が全然違いますし、電車通勤のストレスもなくなった。それに加え、地域コミュニティにもスムーズに参加することができました。転職を本気で考えたとき、妻はもう少し埼玉にいたかったようでも少し難色を示しましたが、いまはこちらで転職もし、結果的に定年まで待たなくて良かったと思っています」

自身のキャリアを最大限に活かし、将来を見据えたUターン転職を成功させた好例だろう。

U・イターン転職成功の秘訣

単純に田舎が好き、だけではダメ。自分の価値観がどこにあるか考える

プロフィール

1972年、島根県生まれ。地方国立大学卒業後、建築設備会社8年、IT会社9年を経て、2012年、転職。

東京→新潟へUターン

CASE 4



横田修二さん(仮名) 38歳

「いつかは実家のある新潟へ、

と思っていたのですが、実際に動くきっかけとなったのは東日本大震災です」と語るのは、新潟県三条市に本社を置くアウトドア用品メーカー(株)スノーピークで、執行役員営業本部長を務める横田修二さん(仮名)。転職前は、楽天(株)で宣伝グループマネージャーとして活躍をしていた。

「転職活動にあたって、自分が行きたいと思う会社にしか行かない」と決めていました。趣味のアウトドアを通じてスノーピークはよく知っていて、ここで働きたいと思ったのですが、そのとき希望の職種での求人はない。そこで転職エージェントに登録して、会ってもらえるようセッティングを依頼しました」

数カ月後、採用前提ではない、という条件付きでの面接が実現。「会えればどうにかなると思っていた」という横田さん。実際、その面接以降、会社の方針がeコマース強化に転換。その後三

回の面接を経て、楽天での9年間の仕事が評価され、国内営業本部EC推進課のマネージャーとしての入社が決定。現在は、eコマースを含めた営業全体のまとめ役を担う。

「東京では共働きだったので、二人とも地方出身で、親に頼れない子育ては大変でした。移住にあたり妻が仕事を辞めたことで収入面では少し不安がありました。が、実家の両親からの子育てのサポートや、孫にすぐに会わせてあげられること、子供の喘息が良くなったことや、自身の趣味の充実など、家族の生活環境を考えると、お金には代えられない満足感があります」

もちろん、仕事の充実度も高い。「ここでは、これまでの自分の仕事の強みを活かして面白そうなことができる。新潟から世界へ発信し、地元に貢献していきたい」と今後の目標を語ってくれた。

U・イターン転職成功の秘訣

自分のこだわりは決して捨てないが、その他は妥協を覚悟する

プロフィール

1975年、新潟県生まれ。北海道大学卒業後、楽天(株)に入社。2012年、転職。

4人にうかがった 転職成功データ

	新村さん	中村さん	津田さん	横田さん
転職時年齢(転職時家族構成)	35歳(妻)	41歳(妻、子供1人)	39歳(妻)	36歳(妻、子供3人)
転職活動期間(エントリー～内定)	約2年	4カ月	2カ月	6カ月
転職活動(面接)をした会社数	4社	1社	1社	2社
転職前→直後の年収差(おおよそ)	100万円▼	100万円～400万円▼	若干▼	200万円▼

取材協力：(株)リージョナルスタイル、公益財団法人ふるさと島根定住財団